

# 第15回香川学会ご案内

日時 平成22年5月15日(土) 13:00～15:00

場所 特別名勝 栗林公園内 商工奨励館北館(公園事務所 TEL:087-833-7411)

演題 「風景を研究した明治人の気概 - 小西<sup>こにし</sup>和<sup>かなう</sup>と小島<sup>こじま</sup>烏水<sup>うすい</sup> - 」

講師 津森 明(香川学会副会長、高松大学生涯学習教育センター長、高松短期大学教授)

入場無料(ただし栗林公園入園は有料:香川県在住の65歳以上の方は

長寿手帳の掲示をされると無料になります。)

\* なお、「香川学春秋」(B5判)創刊号を会場でご希望の方に頒布します。

\* 一般の方の聴講も歓迎しますので、ぜひご来場ください。

## 講演概要

明治と言う年号は大正や昭和と違って、開国して世界に門戸を開いたという点で近代化といわれ、人々の言動も国際的になり自由な発想も出てきていわゆる気概のある人物も出てくる。

讃岐人としてそういう人物を見ると、大自然に目を開いた小島烏水と小西和の事績を忘れてはならない。

小島は高松出身、日本アルプスなどを踏破し、日本山岳会を創設、初代会長になった人物である。横浜正金銀行に勤務し、米国にも10年余勤務した国際人でもある。

小西は今のさぬき市に生まれ、札幌農学校を終えて北海道開拓に意欲を燃やし、今日の道央の原野の開拓を志し「小西村」を開く。しかし事業は挫折し、上京して東京朝日新聞に入社、記者となり日露戦争に従軍記者として渡満、大平原を目の当たりにして目からうろこが落ちる。

日本の勝利の後に帰国、慰労休暇後に退職し、瀬戸内海という広大な内海を改めて見直し、各地を歩いて「瀬戸内海論」という名著を上梓する。

新渡戸稲造をして「世界の宝石」と言わしめた瀬戸内海の研究著作として高く評価されている。演者、津森明が全文を口訳「瀬戸内海論(上下巻)」を発刊している。

小西はその上梓後には帝国議会議員に立候補、昭和にかけて国政に関与し、特に国立公園法の制定に尽力した。昭和6年に法律が成立、9年に第1号として瀬戸内海が国立公園に指定される。

風景というものを学術的に捉えた二人の研究行為は、まったく本人の発想であり行為であり、その気概はもっと評価されるべきである。百年前の明治人の気概を再認識したい。

古代朝廷も和銅年間に諸国に対して「風土記」をまとめさせている。自国の評価をせず何でも海外と言うのは余りに短絡的であろう。

## 香川学会事務局

〒761-0194 高松市春日町960 高松大学生涯学習教育センター内

Tel 087-841-3216 Fax 087-841-3023 (平日午前9時～午後5時)